

## 再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課、有料道路課

担当課長名：深澤 淳志、上野 進一郎

<b>事業名</b> ：一般国道468号 首都圏中央連絡自動車道 (茅ヶ崎～海老名)	<b>事業区分</b> ：一般国道	<b>事業主体</b> ：国土交通省 関東地方整備局 中日本高速道路(株)
<b>起終点</b> ：自：神奈川県茅ヶ崎市西久保 至：神奈川県海老名市門沢橋	<b>延長</b> ：7.9 km	

**事業概要**：首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、東京都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている延長約300kmの高規格幹線道路であり、3環状9放射道路ネットワークの一部を形成し、東京都中心部への交通の適切な分散導入を図り、首都圏全体の交通の円滑化、首都圏の機能の再編成等を図る上で重要な路線である。茅ヶ崎～海老名区間は、その一部を形成する延長7.9kmの自動車専用道路である。

S63年度事業化	H6年度都市計画決定	H6年度用地着手	H8年度工事着手
全体事業費	約2,030億円	事業進捗率	80%
		供用済延長	0.0km

計画交通量 26,400～38,400台/日				
<b>費用対効果分析結果</b>	B/C：(事業全体) 1.3	総費用：(残事業)/(事業全体) 553 / 2,346億円	総便益：(残事業)/(事業全体) 3,007 / 3,007億円	基準年：平成20年度
	(残事業) 5.4	事業費：411 / 2,204億円 維持管理費：142 / 142億円	走行時間短縮便益：2,402 / 2,402億円 走行経費減少便益：394 / 394億円 交通事故減少便益：211 / 211億円	

**感度分析の結果**：事業全体・残事業について感度分析を実施  
 【事業全体】交通量：B/C=1.2～1.4（交通量±10%） 【残事業】交通量：B/C=4.9～6.0（交通量±10%）  
 事業費：B/C=1.2～1.4（事業費±10%） 事業費：B/C=5.1～5.9（事業費±10%）  
 事業期間：B/C=1.1～1.4（事業期間-8%、+20%） 事業期間：B/C=5.4～5.5（事業期間±20%）

**事業の効果等**  
 ・円滑なモビリティの確保（現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる）  
 ・物流効率化の支援（横浜港とのアクセス向上を支援する事業である） 他14項目に該当

**関係する地方公共団体等の意見**  
 神奈川の幹線道路網の整備を推進し、都市や沿道の環境保全を図り、活力と魅力ある県土づくりを実現するため、神奈川県知事を会長とする14市2町の首長で構成される首都圏中央連絡道路建設促進期成同盟会より整備促進の要望（平成20年7月30日）を受けている。

**事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等**  
 周辺の横浜市や厚木市等が業務核都市に指定され、機能集積が進み、交通量が増加し交通渋滞がますます深刻化している。

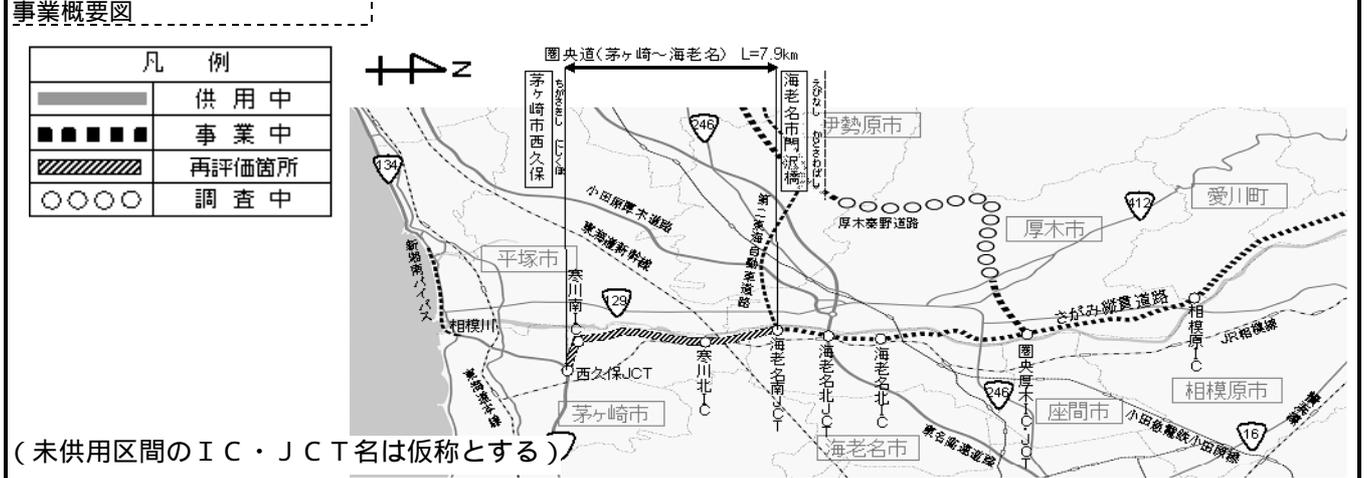
**事業の進捗状況、残事業の内容等**  
 現在までに96%の用地買収が完了しており、引き続き用地買収及び工事の促進を図る。

**事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等**  
 引き続き用地買収及び工事の促進を図り、平成22年度に供用予定である。

**施設の構造や工法の変更等**  
 -

**対応方針**：事業継続

**対応方針決定の理由**  
 首都圏の環状道路の一部を構成しており、全体としての事業の必要性、重要性はかわらない。



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。